



step2 子どもの行動観察と記録



# 1. 感覚の視点

## ・ 感覚（5感と2感）とは？

5感・・・「視覚」「聴覚」「嗅覚」「味覚」「触覚」

2感・・・「固有覚」（筋肉や関節に感じる感覚。

体の位置や動く時の力の入れ方【加減】を理解する感覚）

「前庭覚」・・・三半規管に感じる感覚。自分の頭の位置を感じる、体のバランスを取る、姿勢を保つ、動く時のスピードを理解する感覚。

この2つの感覚がうまく働かないと・・・

座る・立つ・歩く・走るといった日常動作がスムーズにできない  
落ち着きがなく、多動に見える。動きが少なく見える。



# ・ 感覚に偏りがあると ・ ・

| 感覚 | 鈍感                             | 過敏                                           |
|----|--------------------------------|----------------------------------------------|
| 視覚 | 動いている物を目で追いかける<br>捕まえることが苦手    | 周囲の物をあちこち見てしまい<br>気が散りやすい                    |
| 聴覚 | 人の声の聞き取りが苦手<br>呼んでも振り向かないことがある | 大きな音・特定の音が苦手                                 |
| 嗅覚 |                                | 「くさい」とよく訴える                                  |
| 味覚 |                                | 極端な偏食がある                                     |
| 触覚 | 怪我をしても痛がらない<br>なんでも手で触る        | 触れられることを嫌がる<br>粘土・泥・砂遊びなどを嫌がる<br>歯磨き・爪切りを嫌がる |



感覚

鈍感

敏感

固有覚

必要以上に力を入れて遊ぶ  
不必要な時に跳びはねたりする  
つま先立ちで歩いている  
物をそっと持つ・扱うことが苦手

肘や膝など関節にうまく力が入らない  
(体がグニャグニャしている印象)  
しっかりと力を入れて物を持てない

前庭覚

回転する物を見つめることが多い  
頭を振る・体を揺る行動が  
よく見られる

滑り台や階段を下りるのを怖がる  
バランスを崩しやすい、転びやすい  
姿勢が崩れやすい



# 支援のポイント

- ・ 鈍感タイプ→本人の好む感覚を満足するように入れる

Ex. ☆運動遊びや触感を楽しむ遊びで適切に感覚を取り込む

☆飛び跳ねたり体を揺すったりし続ける子→筋肉や関節を押す、軽く叩く  
強めに撫でてギュッと力を入れるなど外側から感覚を入れる

☆視覚・聴覚が鈍感→個別に目を合わせたり体を触ったりして話しかける

- ・ 敏感タイプ→苦手な感覚を避けるor軽減する

Ex. ☆棚を布で覆い隠す、ついたて等で仕切る、大人の声や動きを制限する

☆服のタグやのり等特定の感触に敏感→タグを切り取る、スティックのりにする



# 支援のポイント

2 感に敏感な子ども・・・動きたがらず、体の力を抜いて  
ゴロゴロしていることが多い

→その子の安心できる感覚を見極め遊びを設定し、  
自分から遊び出すのを待ってみる

※ゴロゴロしているのも遊びと捉えて見守るなど安心することで  
過敏さを軽減させる視点も大切



## 2. 記憶の視点

記憶の力＝ワーキングメモリ（情報を記憶し、処理する能力）

＊聴覚性・言語性ワーキングメモリ→言語での指示を覚える、言葉を学ぶ  
文章を理解する

＊視空間性ワーキングメモリ→パターンや映像によるイメージを覚えて活用  
一度に覚えられる事柄は5歳児で1～2つ

Ex.これがうまく働かないと・・・

頼んだことができなかったり、違うことをしてしまう、時間がかかる

2つの容量が大きく違うと言葉で伝わらなくても視覚的に伝わることも

・ 支援のポイント

朝の支度や作業手順を文字や絵で示したり、片付ける所に絵や写真を貼る



# 3. コミュニケーション能力の視点

＊要求・拒否を伝えるスキルとは？

不適切な行動→適切なコミュニケーションを学んでいない、  
間違って学習している

大切なスキル→「～して欲しい」「～したい」「～が欲しい」という要求  
「嫌だ」「できません」という拒否  
「手伝って」「教えてください」という援助要求

Ex. コミュニケーション能力に偏りがあると・・・

おもちゃを貸してと言えず、黙って取ってトラブルになる  
やりたくないことを伝えられず、部屋を出て行ってしまう  
相手との関係性ができてないとスムーズに要求・拒否が出せないことも

・支援のポイント

どうすれば良いのか教える、安心して表現できる環境を用意する



# 4.興味・理解の視点

＊興味・理解とは？

興味・・・活動への興味があるか・ないか

理解・・・活動の全体像をイメージし、流れを把握できる

Ex.興味・理解に偏りがあると・・・

「初めての事」＝「不安な物」と捉えて理解が難しいとやろうとしない  
活動への興味・理解が持てないと不適切な行動につながり、集団活動に参加できなかったり、暴れたり騒いだりしてしまう。

・支援のポイント

子どもの遊びや会話を注意深く観察し、どんなことに興味があるか把握  
そして興味があることを活動に取り入れる。

Ex.乗り物が好き→フルーツバスケットを電車の名前でやる

劇遊びでバスに乗る場面を作るなど

視覚的な手がかり、活動の手順を示すなど理解しやすい環境作り



# 5. 集中力・思考のくせの視点

Ex. 集中力・思考のくせに偏りがあると・・・

活動への参加が難しくなり、集団活動を乱したり、途中でその場を離れる

「失敗＝取り返しのつかないもの」と考えてしまい切り替えができない

「黒か白か」「0か100か」という考え方になり失敗が

この世の終わりのように考えてしまう。

失敗を避けるために活動をやらない、新しい体験＝不安・大きなストレス

→経験が広がらない

・支援のポイント

集中が続かない→刺激が多い場合は環境見直し、指示が難しいなら

簡潔な言葉で伝えるなど伝え方を工夫

ネガティブ思考→普段から「失敗は成功のもと」と繰り返し伝え

失敗に対する免疫をつける